

京 都 大 学  
高 等 教 育 研 究

第 5 号

---

京都大学高等教育教授システム開発センター

1999

## 目 次

## 第一部 論 稿

大学授業のフィールドワークから大学教育学へ——公開実験授業プロジェクト3年間の中間的総括——	
田中毎実 京都大学高等教育教授システム開発センター	1
高等学校と大学の接続に関する研究(その1)	
——学生の高等学校と大学における学業についての差異の認識の観点から——	
神藤貴昭 京都大学高等教育教授システム開発センター	23
石村雅雄 京都大学高等教育教授システム開発センター	
KKJ実践におけるインターネットの位置づけ——インターネットを用いた高等教育実践研究の動向をふまえて——	
田口真奈 京都大学高等教育教授システム開発センター	41
村上正行 京都大学大学院情報学研究科院生	
学生主体の授業KKJ実践における学生たちの学び	
溝上慎一 京都大学高等教育教授システム開発センター	57
田口真奈 京都大学高等教育教授システム開発センター	

## 公開研究会での報告に基づく論稿

「厚生補導と教養教育——学生相談と授業の体験から——」	
藤原勝紀 京都大学大学院教育学研究科	85
「技術教育は『面白い授業』でよいのか——機械製作実習の講義『安全工学概論』に対する学生の評価——」	
柴田俊忍 京都大学大学院工学研究科	95
「工学における教育プログラムに関する検討委員会の活動」	
吉田郷弘 京都大学大学院工学研究科	103

## 第二部 記 録

## 「第5回大学教育改革フォーラム」(所属等はフォーラム開催時)

## 大学授業をどう変えるか——研究から実践へ——Faculty Developmentを超えて

開会の辞	荻野文丸 京都大学高等教育教授システム開発センター長	109
挨拶	長尾真 京都大学総長	110
趣旨説明	田中毎実 京都大学高等教育教授システム開発センター・教授	113
基調講演 「大学授業をどう変えるか——研究から実践へ」		
	稲垣忠彦 帝京大学文学部・教授	115
問題提起		
「行動分析の観点から」		
	米谷淳 神戸大学大学教育研究センター・助教授	122
「コミュニケーション分析の観点から」		
	山地弘起 メディア教育開発センター・助教授	127

「教授学の観点から」

田中 耕治 京都大学大学院教育学研究科・助教授 ..... 134

「相互行為分析の観点から」

大山 泰宏 京都大学高等教育教授システム開発センター・助教授  
..... 139

質疑応答 ..... 146

“Japanese Logical Thinking: A Quantitative Assessment of University Students' Reasoning Abilities.”

José Alejandro RAMIREZ:

Universidad de las Américas, Puebla, Mexico ..... 153

Yasuhiro OYAMA

: Research Center for Higher Education, Kyoto University

研究ノート

「京都大学学生および教職員の体育・スポーツ施設に関する意識調査」

井 街 悠 京都大学体育指導センター ..... 165

笹 山 哲 京都大学医療技術短期大学部

吉 田 真 平 京都大学体育指導センター

高等教育教授システム開発センター日誌（1998年9月～1999年8月） ..... 177

高等教育教授システム開発センター業績（1998年9月～1999年8月） ..... 181

Research Center for Higher Education 1998-1999 ..... 186

『京都大学高等教育研究』編集規定 ..... 190

『京都大学高等教育研究』投稿規定 ..... 190

『京都大学高等教育研究』投稿にあたっての注意 ..... 191

## 『京都大学高等教育研究』編集規定

1. 本誌は京都大学高等教育教授システム開発センターの研究誌として、原則として1年に1回発行する。
2. 本誌には、本センター関係教官の研究論文等の他、共同研究の報告その他本センターの研究活動、本学の高等教育改革に関する記事等を編集掲載する。
3. 本誌の編集のために編集委員をおく。編集委員長は、センター長が委嘱する。編集委員長は編集委員若干名を委嘱する。編集事務を担当するために編集幹事をおく。編集幹事は編集委員長が委嘱する。編集委員長及び編集委員の任期は1年とする。但し、再任を妨げない。
4. 編集委員会は、各年度の編集方針その他編集に必要な事項を定める。
5. 本誌に論文等の掲載を希望する者は、所定の論文投稿要領及び編集委員会の定める各年度の編集方針に従い、原稿3部（うち2部はコピー可）及び原稿をテキストファイルで保存したフロッピーディスク（2HD, 1.4MB）を編集委員会事務局に送付しなければならない。
6. 投稿された論文等の掲載は、編集委員会の合議によって決定する。
7. 掲載される論文等について、編集委員会は若干の変更を加えることができる。但し、内容に関して重要な変更を加える場合は、執筆者との協議を経るものとする。

（附則）本規定は、平成10年度発行の『京都大学高等教育研究』第4号から施行する。

## 『京都大学高等教育研究』投稿規定

1. 論稿の内容は、日本及び世界の高等教育研究に寄与しうるものとする。
2. 投稿された論稿は、レフェリー制度を通じて選定の上編集される。投稿原稿は原則として返却しない。
3. 用語は原則として日本語を用いること。但し、特殊な文字ならびに記号の使用については編集委員会に相談のこと。
4. 論稿は原則として以下の作成要領により、ワープロによって作成するものとする。
  - ① A4版用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
  - ② 1,000字を1頁とし、20頁以内の分量とする（図表、註、参考文献を含む）。
  - ③ 論文題名の後に題名の英訳及び英文200語程度の論文要約を付すこと。
5. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。但し抜き刷りを50部贈呈する。なお、それ以外にもあらかじめ注文があれば実費で作成する。
6. 投稿希望者は参考文献表記法等のパンフレットを編集委員会に請求すること。
7. 本規定の改正は編集委員会が行う。

（附則）本規定は、平成11年度発行の『京都大学高等教育研究』第5号から施行する。

## 『京都大学高等教育研究』投稿のための注意

平成11年5月14日制定

1. 論文原稿は未発表のものに限る。但し、口頭発表及びその配布資料はこの限りでない。
2. 使用漢字は常用漢字を、仮名づかいは現代仮名づかいを原則とする。数字は原則として算用数字を使用する。計量単位は、原則として国際単位系（SI）を用いる。
3. 外国人名、外国地名に原語を用いるほかは、叙述中の外国語は活字体で表記し、なるべく訳語をつける。
4. 註及び引用文献は、論文末に一括して掲げる。引用註は、論文の場合、著者、論文名、雑誌名、巻、号、年、頁の順とし、単行本の場合、著者、書名、発行所、年、頁の順とする。  
  
例 ・ 田中每実「定時公開授業『ライフサイクルと教育』(1) — 平成8年度実施のために —」『京都大学高等教育研究』第2号、1996年、127頁。  
・ 讃岐幸治・田中每実共編『ライフサイクルと教育』青葉図書、1995年、5頁。
5. 引用文献と註を区別し、註は本文中の該当個所に、上付き文字で(1)、(2)……と指示し、論文原稿末尾にまとめて記載する。記載例は、4による。
6. 引用文献は、本文中では、著者名（出版年）、あるいは（著者名、出版年）として表示する。同一著者の同一年の文献については、a, b, c, ……をつける。  
  
例 ・ 田中（1995a）が強調するように、……  
・ という調査結果も提示されている（田中、1996）。
7. 引用文献は、日本語文献、外国語文献を問わず、註のあとにまとめてアルファベット順に記載する。  
  
例 ・ 田中每実「定時公開授業『ライフサイクルと教育』(1) — 平成8年度実施のために —」『京都大学高等教育研究』第2号、1996年。
8. 脚注は、表題、所属機関の補足説明、謝辞、内容の補足説明に限り用いる。全ての脚注を1枚の用紙に書き、ローマ数字 i ii ……で通し番号をつける。
9. 論文の題名の英訳及び論文の英語による200語程度の要約を、日本語題名の後につけること。

以 上

『京都大学高等教育研究』第5号 編集委員会

田中 每実      ◎石村 雅雄      大山 泰宏  
溝上 慎一      神藤 貴昭  
(◎は編集委員長)

平成11年9月30日 印刷

非売品

平成11年10月1日 発行

発行 京都大学高等教育教授システム開発センター

京都市左京区吉田本町 (〒606-8501)

TEL 075-753-3087

FAX 075-753-3045

印刷 (株)北斗プリント社

京都市左京区下鴨高木町38-2

TEL 075-791-6125

# Kyoto University Researches in Higher Education

## vol. 5

---

### CONTENTS

#### Articles

- Towards University-Pedagogy through University Class Fieldwork  
— Interim Summary of the “Open Laboratory Class” Project in three Years —  
..... Tsunemi TANAKA
- A study of articulations between senior high schools and universities (1)  
— Focused on differences of learning strategy — ..... Takaaki SHINTO  
Masao ISHIMURA
- The Role of Internet in Kyoto-Keio Joint seminar Project  
— Based on the Recent Trends of Higher Education Research and Practice with Internet —  
..... Mana TAGUCHI  
Masayuki MURAKAMI
- Active learning of Students in the Student-centered education KKJ project ..... Shinichi MIZOKAMI  
Mana TAGUCHI
- A Report on Student Personnel Service and Liberal Education ..... Katsunori FUJIWARA
- Should the Technical Lectures be Interesting Ones ?  
— From Students’ Comments for Lecture “Safety Engineering” in Manufacturing Exercise —  
..... Toshinobu SHIBATA
- Report on activities of committee for the investigation of curriculum in Faculty of Engineering  
..... Satohiro YOSHIDA

#### Documents

- Vth Forum of University Reform; How do we reform lectures in universities? — from Research to Practice
- Opening Remarks I ..... Fumimaru OGINO
- Opening Remarks II ..... Makoto NAGAO
- Purpose of this Forum ..... Tsunemi TANAKA
- Lecture “How do we reform lectures in universities? — from Research to Practice”  
..... Tadahiko INAGAKI
- Comments “From the view point of behavioral analysis” ..... Kiyoshi MAIYA
- “From the view point of communication analysis” ..... Hiroki YAMAJI
- “From the view point of school curricular analysis” ..... Koji TANAKA
- “From the view point of interaction analysis” ..... Yasuhiro OYAMA
- Discussion

- 
- Japanese Logical Thinking: A Quantitative Assessment of University Students’ Reasoning Abilities.  
..... José Alejandro RAMIREZ  
Yasuhiro OYAMA

#### Research Note

- A Survey of Students’ and Staffs’ Opinions on the Athletic Facilities at Kyoto University  
..... Yu IMACHI  
Satoshi SASAYAMA  
Shinpei YOSHIDA

---

RESEARCH CENTER FOR HIGHER EDUCATION

Kyoto University

1999